

平成17年9月20日

筑波研究学園都市記者会御中

国立大学法人筑波大学

アスベスト（石綿）問題に係る本学の対応状況について

本学における建築物のアスベストの対応は、昭和62年に調査を行い、その段階で「吹き付けアスベスト」については既に必要な対策を講じてきたところではありますが、近年、アスベストによる健康被害が深刻化していることを受け、今回新たに「吹き付けロックウール」、「吹き付けひる石」及び「折板裏打ち石綿断熱材」の3品目の使用状況について、実態調査を行っているところです。

現在までに、アスベストの使用状況に関する設計図書等による調査を完了いたしました。その結果は次のとおりです。

平成8年（規制強化）以前に建設された建物	729棟
その内、アスベスト使用の可能性があるか、使用の有無が不明なもの	270棟
<u>内、調査対象（アスベストが露出していない5棟を除く）</u>	<u>265棟（7,235室、約118,200㎡）</u>
・設計図書等からアスベストの使用が推定される建物	39棟（787室、約26,900㎡）
・アスベスト使用の有無が不明な建物	226棟（6,448室、約91,300㎡）

上記の内、明らかにアスベスト含有建材が使用されており、経年や使用状況等から早急に確認が必要と判断した箇所について、大気中の濃度を測定した結果、大気汚染防止法による基準値（1リットル中10本以下）を大幅に下回る値（0～0.19本）が得られました。

今後引き続き調査を徹底し、安全対策に万全を期するため、現地調査によるアスベストの有無と劣化状況の確認を行うとともに、対策の必要性及び対策が必要な場合の具体的方法等について検討を行うことにしています。これらの調査・検討を強力に推し進めるべく、学内の専門家を含めた「筑波大学アスベスト対策連絡会」（座長：岡本健一教授・環境安全管理室長）を設置するとともに、アスベスト相談窓口を設け、全学的な体制を整えております。

以上

本件についての問い合わせ

総務・企画部広報課長 029-853-2061
施設部施設企画課長 029-853-2271